

第5回蒲田駅周辺地区グランドデザイン専門部会 議事要旨

日時：令和3（2021）年1月14日（木）10：00～12：00

場所：Web会議（新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため）

委員長 中井 検裕 東京工業大学 環境・社会理工学院 教授

委員 大沢 昌玄 日本大学 理工学部土木工学科 教授

野原 卓 横浜国立大学大学院 准教授

齋藤 浩一 まちづくり推進部長、新空港線・まちづくり調整準備室長

青木 重樹 まちづくり推進部都市開発担当部長

1 開会

2 挨拶

3 部会の成立

部会長より専門部会の開催要件と出席委員数が確認され、専門部会の成立が宣言された。

4 議事

議題：骨子の策定・公表に向けて

事務局より資料1を基に説明

（委員）

「エリア別取り組みの方向性」（14頁）については、骨子の段階ではこの程度の表現となるが、どのようなエリアでどのような取り組みをしていくかは今後の検討となる。誤解を招かないよう検討の途中段階であり決定事項では無い旨の注意書きを記載しておいた方がよい。

（委員）

目標の記載について、具体的な取り組みを示唆する目標と、抽象的で具体的にどのような取り組みに繋がるのか分かりにくい目標があるため、具体的な取り組みを示唆できるものについては取り組みに繋がるような表現とした方がよい。

（委員）

「エリア別取り組みの方向性」（14頁）については、今後検討するため書けることが少ないのはわかるが、もう少し示唆的にした方がよい。JR東急蒲田駅の東西を結ぶことを表現するために、矢印を違う色にするなどしても良いのではないか。

（事務局）

いただいたご意見を踏まえ、検討のうえ修正する。

（委員）

目標5は、公共用地の空間である駅・駅前広場の整備について、目標6は、その公共空間を歩行者に配慮することについて、目標7は、交通システムなどの手段について、目標8は民間の建物について、を扱っていることは理解できるが、綺麗に分かれている気がする。

公共空間と民地空間が一体的になることでにぎわいが生まれるため、「基本方針2 都市空間の充実」で、公共空間と民地空間の一体的な空間を形成するということが読み取れた方がよい。公共用地と宅地側の土地利用の融合を図り人々が回遊しにぎわい溢れる空間の形成のような記載があると良い。

（委員）

蒲田駅周辺地区グランドデザイン（以下「グランドデザイン」という。）は、ハードだけではなくソフト施策も含めた総合的な将来像を描くものだが、現行はハードに傾いていたと感ずるので、ソフトな面も強化する必要がある。また、グランドデザインの関連計画として蒲田駅周辺再編プロジェクト（以下「再編プロジェクト」という。）と現在検討を進めている蒲田駅周辺地区基盤整備方針（以下「基盤整備方針」という。）があるが、それらとの関係性をはっきりするため、「グランドデザインの位置付け」（1頁）に明示するべきである。

議題：素案の策定に向けて及び蒲田駅周辺地区基盤整備研究会について

事務局より資料2から7を基に説明

（委員）

資料7「まちづくりの方向性（骨子）」は大分整理されたが、この内容は資料4「素案の構成

について」ではどこに反映されるのか。

(事務局)

「6章 アクションプラン」「1.都市軸・ネットワーク図・エリア別方針図」に反映する予定である。

委員のご意見を踏まえ、蒲田地区全体のまちづくりの観点から JR 東急蒲田駅直近の拠点でどのようなまちづくりを行うべきか。その方向性を概ね取りまとめることができた。蒲田駅周辺地区基盤整備研究会（以下「研究会」という。）は方向性を踏まえ、引続き基盤整備に向けた検討を行う。

(委員)

6章に反映するのであれば、タイトルは変えた方がよい。

(委員)

基盤整備方針策定の時期はどのように考えているのか。

(事務局)

ランドデザイン、基盤整備方針及び再編プロジェクト各計画の役割等を踏まえ、ランドデザイン策定後、基盤整備方針を策定することにしたい。

(委員)

承知した。基本はこれでよい。

(委員)

研究会は、基盤整備に向けた調整等を中心に進めている会である。何のために基盤整備をするのか目的や方向性は、ランドデザイン改定を所管する当部会で検討する必要があるが、今の検討の進捗だと上手く説明できていないところがあるため、両計画の繋がりをよくするため、資料7で駅直近地区のまちづくりについて先行して整理した。

(委員)

基盤整備に関わる部分についてしっかり伝わるように先行的に整理したという理解でよいのか。

(事務局)

委員お話のとおりである。

(委員)

資料4について、第8章の「2.分野横断によるまちづくり」とは、どのような内容を扱うのか。

(事務局)

複数の取り組みを連携しながら実施する必要があることを示したい。各取り組みに横ぐしを刺すことをイメージしている。

(委員)

分野という言葉がわかりにくい。誤解を招かないようタイトルを変えた方がよい。

(事務局)

いただいたご意見を踏まえ、修正する。

(委員)

素案の構成の流れが分かりにくい。5章までと6章以降の話が繋がっているように見えない。公共空間と民地空間が一体的にという話が先程あったが、各種事業や取り組みを連動しながら一体的にまちづくりを進めていくというようなことがランドデザインの最後にしか出てこない。官民連携や分野横断していくという事が骨子の前半で示された方がよい。

(事務局)

構成は現時点の想定案であることから、ご意見を頂きながら引続き検討を進める。

(委員)

骨子の段階で、先程ソフトの話も出たが、マネジメントしながらハードと連動してまちづくりをしていくというような内容があってもよい。

(事務局)

骨子においては、複合的に取り組むことを示唆している部分がある。資料1「改定骨子(案)」5ページのイメージ図で表現している。また、6ページでは、活動が活発に展開されるため、活動するための空間を創出する。また、その空間はしっかりした環境を整えていくというように、活動、空間、環境に関する取り組みを連携しながら実施することで相乗効果を生むことを示している。

(委員)

この表現を見ても伝わらない。連携しながら実施することやマネジメントしながら実施という事が示されたうえで、アクションプランの章を見ると具体的な事が示されているとよい。

(委員)

アクションプラン（取り組み）があまりにも一対一対応になっている。アクションプランによっては複数の目標に関係しているものがあると思うので、目標と取り組みを一旦切り離してはどうか。

(事務局)

複合的に取り組むことが伝わるよう、表現方法等について引続き検討する。

(委員)

資料4、7章の6つの項目と資料5で記載されている現在検討中のアクションプランとは何が違うのか。

(事務局)

7章の役割については現在検討しているところである。現行グランドデザインでは「6章 蒲田駅を中心とする地区整備について」に該当する章であり、駅直近地区の整備の方向性を示している。再編プロジェクトに繋げる役割があり、アクションプランより深掘した内容となっている。

(委員)

現行グランドデザインの6章が生き残っているということだが、7章については章立てするかどうか。また、そもそもタイトルのアクションプランが実現するためのプランなのに、実現プランの実現に向けた取り組みとなっていることから、整理した方が良い。

現行6章はグランドデザインの策定時に基盤整備方針が無いが、それに相当するようなアイデアは入れておきたいという事で出来たと推測する。今回は、基盤整備方針が策定予定であるので、基盤整備方針への橋渡しをどのようにするのかを含めて再度考えた方が良い。

(委員)

研究会によって基盤整備方針を今後策定するのであれば、グランドデザインでは概ねの方向性までを記載することに留めておくことも1つの方法である。

(委員)

おそらく現行グランドデザインの策定時は、蒲田駅直近の状況について課題であったことから、リーディングプロジェクトを積極的に書いたのだと思う。結果として、現在研究会が設置され検討が進められていることは、この成果ではないか。

今回の改定では、駅直近地区の整備以外にも、他に方向を示す必要がある場合には記載した方が良い。また、資料5にあるようなアクションプランを組み合わせる1つの場をつくっていくことになると思うので、そのようなことの表現も含めて、6章と7章は検討されると良い。

(委員)

資料2「蒲田駅周辺地区グランドデザイン改定スケジュール（案）」について、都市計画マスタープランとの今後の関係性はどのように考えているのか。

(事務局)

都市計画マスタープランとの連携については、今後も継続して連携を図っていく。都市計画マスタープラン改定の委員会へは、適時適切なタイミングで報告していく。

議題：区民参画について

事務局より資料8を基に説明

(委員)

区民参画については、都市計画マスタープランと同じタイミングで実施するのであれば、連携した方が良い。区民にわかりやすく、それぞれの計画の位置づけを示した方が良い。

(事務局)

コロナ禍であること、都市計画マスタープランの進捗等を踏まえ、実施のタイミング、手法について引続き検討していく。